

令和5年度第2学年修学旅行に寄せて

令和5年度の橿原高校の修学旅行は2泊3日の北陸・東海地方への旅となりました。

初冬の北陸地方は少し寒いかもしれませんが、体調には十分に気をつけて有意義な修学旅行にして欲しいと思います。

さて、高校生活というものは、偶然に出会った同世代の若者が大小の「集団（チーム）」を形成して行動することが基本形態となっています。その一方で、高校時代は、各個人の性格や考え方、指向などが徐々に固まりつつある時期ではありますが、それは本当に多種多様で一人として全く同じ人はいないし、また、それぞれがそれぞれに絶えず変化（成長）を続けています。それゆえ、集団を形成する各個人と個人との関係は、出会ったときからすごく気が合っていると距離が近くなり無二の親友となることもあれば、最初は良好な関係であったにもかかわらず時が経つにつれて意見や指向が合わなくなって互いに離れていたり、場合によれば不要な仲違いをしてしまうこともあります。これらはどれも全く自然なことで、良いも悪いもないことだと思えます。ですから、学校や学年、クラスといった集団は、そのようなあらゆる人間関係を包み込んで、各個人と同じように集団もまた成長しながら、常に各個人の成長を見守り、誰かがしんどいときには寄り添い支えて続けてくれるものでなければなりませんよね。9月の体育大会の挨拶でも触れたように思いますが、私は、緩やかにつながった集団であればこそ手に入れることのできる大きな「力」があると思っています。気の合う友だちだけではなぜか気付かずに通り過ぎてしまうようなものがたくさん転がっているのが「学校」です。この「修学旅行」も、自分一人だけでは、また、いつも一緒にいる仲良しグループでは、絶対に見つけることができないものを見つけたり、とても感じるすることができないものを一杯感じたりできる、そんな3日間になることを願っています。

以下は、昨年度の修学旅行のしおりへの寄稿の結びの部分ですが、少し加筆修正をして、今年も結びに使いたいと思います。

「旅は道連れ 世は情け」ということわざを聞いたことがありますか？

江戸時代の書物が語源となっているようです。江戸時代は、現代とは違い交通機関が未発達な上、道中や目的地の情報を得ることが困難だったため旅に出ること自体がとても不安なことで、実際にいろいろと危険が付きまとうものでもあったそうです。ですから、たまたま縁があって道中で偶然出会った、二人、三人、・・・が、各々の目的や思惑に多少の違いがあったとしても、とりあえずしばらくの間、連れだって旅をすれば、一人旅では不可能なことや、あきらめざるを得なかったことなどが、「旅路の途中♪」で起こったとしても、その時には、互いに知恵を出し合ったり、足りないところを補い合ったりすれば何とか解決できるかも！だから、偶然の出会いを大切に、互いに思いやりをもって助け合いながら旅を続けよう！そしてそれぞれの目的地を目指そう！という考え方を表した言葉だと思えます。深読みをすれば、「道連れ」は、多種多様ないろんな考えや特徴をもった人の集まりの方が良いと言っているようにも思えます。

「人生」はよく「旅」に例えられ、「道連れ」は同行者、偶然出会った同伴者のこと。「世」は人の一生、あるいは世間や社会を指し、「情け」はいたわりや思いやりのこと。なかなかよくできた言葉です。